

# 室町水墨画論集

畑 靖紀

## 室町水墨画論集

畑 靖紀 著

定価 16,500 円（本体 15,000 円＋税 10%）

A 5 判上製函入 本文 560 頁 口絵 8 頁 ISBN 978-4-8055-0892-3 2021 年 10 月刊行

### 【著者略歴】

畑 靖紀（はた・やすのり）

1971 年 秋田県生まれ  
1993 年 東北大学文学部史学科卒業  
1995 年 東北大学大学院文学研究科美学・美術史学科修士課程修了  
1998 年 東北大学大学院文学研究科美学・美術史学科博士課程単位取得退学  
1998 年 東北大学文学部助手（東北大学総合学術博物館と併任）  
2001 年 東北大学大学院文学研究科美学・美術史学科博士課程修了、  
博士（文学）の学位取得  
2003 年 日本学術振興会特別研究員（PD、東北大学・東京大学）  
2004 年 九州国立博物館学芸部研究員  
この間、九州大学、北九州市立大学、宮城学院女子大学の非常勤講師をつとめる  
現 在 九州国立博物館学芸部主任研究員

### 【主な著書・論文】

「南蛮屏風小考―館蔵品の特色ある主題をめぐって―」『東風西声 九州国立博物館紀要』第 3 号、九州国立博物館、2007 年  
辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009 年（共著）  
島尾新責任編集『日本美術全集』第 9 巻『室町時代 水墨画とやまと絵』小学館、2014 年（共著）  
「狩野内膳の南蛮屏風―旧川西家本の再出現をうけて―」『国華』第 1480 号、国華社、2019 年  
「孫億と山口宗季（呉師虔）の花鳥図―館蔵品・寄託品の素材と伝来を中心に―」『東風西声 九州国立博物館紀要』第 14 号、九州国立博物館、2019 年

### 関連書籍

## 河合正朝絵画史論集〔全 2 巻〕

日本絵画史研究を長年牽引してこられた河合正朝氏の半世紀にわたる論考の中から、主要論文を系統的に編纂した集大成。国内の絵画史研究者のみならず、海外の研究者にも通読をたやすくし、美術史研究の一道標として日本美術研究の更なる深化を願うものである。

### 上巻

定価 33,000 円（本体 30,000 円＋税 10%）

B5 判上製函入 本文 500 頁 口絵 8 頁 挿図 350 点 ISBN 978-4-8055-0867-1

### 下巻

定価 33,000 円（本体 30,000 円＋税 10%）

B5 判上製函入 本文 514 頁 口絵 8 頁 挿図 720 点 ISBN 978-4-8055-0868-8

### 【第 27 回国華賞受賞】

## 唐宋山水画研究

竹浪 遠 著

唐墓壁画、敦煌壁画、正倉院などの国内の絵画工芸意匠など幅広く作品を取り上げ、唐宋山水画の関連性や変遷の過程を捉えて、唐宋変革期における山水画の発展要因や画風変遷、描写内容解明する独創的な研究成果である。

定価 30,800 円（本体 28,000 円＋税 10%）

B5 判上製函入 本文 472 頁 口絵 16 頁

ISBN 978-4-8055-0736-0

### 【第 7 回三島海雲学術賞受賞】

## 北宋絵画史の成立

塚本麿充 著

北宋時代に成立した文物の収蔵、公開機関である三館秘閣を中心に、北宋絵画史の成立に至るまでの過程を扱う。「文物」についての存在意義と機能を問い、交流史を結節点に、形や意味を変容させていく過程を総体的に捉えて「文物」の歴史を解明する画期的論考。

定価 30,800 円（本体 28,000 円＋税 10%）

B5 判上製函入 本文 720 頁 口絵 8 頁

ISBN 978-4-8055-0758-2

### 【第 30 回国華賞特別賞受賞】

## 日本絵画史論攷 ―紺丹緑紫抄

有賀祥隆 著

日本・東洋絵画史研究の第一人者である著者長年の研究を、主題、制作年代、筆者・筆者系統、制作背景の 4 篇の章に分けて収録、西洋美術に対して日本絵画とは何かを明らかにする論文集。  
4 篇の附として「終章 日本絵画の特質」を収録。

定価 33,000 円（本体 30,000 円＋税 10%）

B5 判上製函入 本文 472 頁 口絵 16 頁 挿図 700 点

ISBN 978-4-8055-0800-8

## 中国絵画の内と外

宮崎法子 著

中国絵画史研究の第一人者である著者の集大成というべき論文集。中国絵画とそれをとりまく世界との関係を多彩な観点から読み解き、また宋代から清代までの多岐にわたる作例について絵画表現という豊かな情報を、関連文献資料を援用しながら検討する。

定価 16,500 円（本体 15,000 円＋税 10%）

A5 判上製函入 本文 752 頁 口絵 8 頁

ISBN 978-4-8055-0878-7

## 中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは

室町時代にひろく愛好された水墨画は中世美術を特徴付ける分野であり、日本文化のなかで歴史的に重要な位置を占めている。そのような意義をもつ室町水墨画について、雪舟研究を中核にすえ、絵画の受容者を対象とする視点、近代国家の枠組みを越えた中世の文化交流に注目する視点、逸失作品の積極的な復元という二つの課題を踏まえて分析考察を進めた研究成果の公刊。

「室町水墨画」をひらいてゆく

島尾 新（学習院大学教授）

「室町水墨画」というと、五山の禅僧たちのマニアックな世界というイメージがあったのだが、この数十年でずいぶんと開かれてきた。畑靖紀さんはこれを主導したひとり。特に室町將軍邸に飾られた「皇帝の絵画」を中心とする、唐絵・唐物をめぐる権力表象と文化幻想のシステムについての議論は、「美術史」の枠を突き抜け、批判されて久しい「二国史」から「東アジア」への、そして「際物」ではないインターディプリナリーへの回路を示すものとなった。これに加えて、実際に中国へ渡り、その存在自体がひとつの回路となった雪舟のありようと、中国と共有されつつずれてゆく、画院画家「夏珪」の作品のイメージが丁寧に紡ぎ出されて、全体の「配線図」が見えてくる。

「足利將軍家と東山御物」「雪舟等楊——生涯と作品」「文化交流と中世水墨画」という極めて真つ当な構成は、私の世代のモダニズム批判を超えて、次のフェイズを示している。畑さんそして室町仲間とともに絵を見ながら議論して、もう四半世紀を過ぎただろうか。そのプロセスと成果も見事に纏められ、「室町水墨画」が日本文化史上の重要なトピックであることを、改めて教えてくれる必読の書である。

美術史研究の王道から、室町文化論の再構築に挑む論集

橋本 雄（北海道大学大学院教授）

室町絵画の研究というと、近年はやまと絵にやや分があるらしい。だが、水墨画ぬきに室町時代史を語ることなど、到底不可能であろう。禅や武家文化、同朋衆など、中世後期の日本文化史をもっとも特徴づける共通項に、水墨画は鎮座する。室町水墨画を抜きに、日本史、あるいは東アジア史を語ることは、もはや不可能といってもよい。

さて、水墨画といえば雪舟、というのが世間の相場だろう。もちろん著者はその専門家として早くから頭角を現わしてきた。その一方、雪舟のみにとどまらず、室町幕府や有力守護大名などの文化動向にも絶えず著者が細かな目配りしていたのに筆者が気付いたのはいつ頃だったか。十数年前、同僚として博物館の中世展示についてあれこれ議論していた頃のような気がする。

それにしても、これほどまでに広げに広げた大風呂敷を、著者は一体どのように豊んでいくつもりか、正直、これまで想像もつかなかった。その答えが、本書にて開陳されるわけである。日本の文化史のありようを考え、多くの人々にとって、本書は必読の文献となるに違いない。

ところで、美術史学を専門とする著者と日本史学の筆者とのあいだにはささやかな論争もある。だがこれも、専門を異とすれども、室町時代研究をめぐって「対話」のできる機が熟してきたことの証ではないか。人文社会科学の成熟の兆し、と受け止めるのは、単なる手前味噌だろうか。

本書の公刊をきっかけに、文献史（日本史や東洋史など）や美術史の枠を越えた対話の輪がさらに広まり、過去の人々の生き様に多方面から肉薄しうる日の来ることを期待したい。

## 目次

はじめに——室町水墨画研究の課題と本書の研究対象——

### 第二部 足利將軍家と東山御物

#### 第一章 会所の唐絵

- 一 室町時代の南宋院体画に対する認識をめぐって  
——足利將軍家の夏珪と梁楷の画巻を中心に——
- 二 会所と影供の掛幅——日本中世を飾る作法——
- 三 禅を見せる——室町殿会所の演出——  
補論 《皇帝の絵画》再考
- 四 大内氏の美術——武家の故実と絵師——

#### 第二章 夏珪の瀟湘八景図

- 一 失われた瀟湘八景図をめぐって
- 二 夏珪の瀟湘八景図と室町水墨画——東山御物の規範性に関する試論——

### 第二部 雪舟等楊——生涯と作品

#### 第一章 概説——伝歴と自己認識

- 一 雪舟の中国絵画に対する認識をめぐって
- 二 雪舟の心境をめぐる前提——人生の節目と選択——
- 三 山水画の伝統と雪舟——北京と山口で描いた大作——
- 四 『古画備考』巻二十上「雪舟」について

#### 第二章 二つの四季山水図

- 一 雪舟山水画小考——入明時の古典の学習——
- 二 雪舟筆四季山水図（石橋美術館別館）再考  
——図様の典拠と制作年代について——

#### 第三章 文明十八年の大作

- 一 山水長巻研究——その〈かたち〉と〈意味〉をめぐって——
- 二 文明十八年の大内氏と雪舟
- 三 雪舟の観音変相図をめぐって

### 第三部 文化交流と中世水墨画

#### 第一章 禅僧と水墨画

- 一 鏡堂寛円賛 白衣観音図
- 二 中世における造型の鑑賞論理に関する一考察  
——禅僧・仲方圓伊の山水観を中心に——
- 三 京都五山の水墨画
- 四 渡唐天神像小考——館蔵品の素材と表現について——

#### 第二章 戦国時代の多彩な展開

- 一 相阿弥筆 山水図
- 二 鑑貞筆 春夏山水図屏風
- 三 雪村周継筆 龍虎図屏風
- 四 雪村の波——名画に挑む個性——

おわりに——本書の成果と今後の課題——

初出一覧  
あとがき  
図版出典